



この資料は、障害者相談支援従事者研修テキストとNSK制作講義動画の  
資料を参考に「北陸三県合同研修版」に改変したものです。

## 令和7年度 北陸三県主任相談支援専門員養成研修

# 『人材育成の地域での展開』

- 社福) かすみが丘学園 障害者支援施設 ライフかすみ  
主任相談支援専門員 弓取 寛
- 社福) 長久福祉会 相談支援事業所かが  
主任相談支援専門員 堂前 大輔

令和7年11月18日

# 本講のねらい

- 地域における人材育成の展開に関する必要な知識を習得する。
- 地域における具体的な人材育成の展開手法を習得する

## 学習のポイント

- 圈域(地域)での実地教育(OJT)
- サービス等利用計画の質の向上に向けたスーパーバイジョン
- 個別課題から地域課題への転換
- グループスーパーバイジョンと事例検討
- 地域連携、地域つくりに向けた研修企画・運営

# 研修講義と演習の流れ

科目の導入 ※講義説明と振り返りシートの記入

1. 講義1 圈域(地域)でのOJT

演習1 テーマ:『主任相談支援専門員の地域での役割』  
(個人ワーク～グループワーク)

まとめ 全体共有＋振り返り

«休憩 10分»

2. 講義2 サービス等利用計画の質を高めるための個別スーパービジョン

演習2 テーマ:『相談支援の質の向上に向けたスーパービジョンの方法』  
(個人ワーク～グループワーク)

まとめ 全体共有＋振り返り

3. 講義3 個別課題から地域課題への転換

演習3 テーマ:『個別課題から地域課題へ転換するグループスーパービジョン』  
(個人ワーク～グループワーク)

まとめ 全体共有＋振り返り

4. 講義4 地域連携、地域づくりに向けた研修企画・運営

※振り返りシートの記入

# 演習1

## 『主任相談支援専門員の地域での役割』

### 演習事例

地域の相談支援員	アキさん 28歳 女性 A市相談支援事業所の相談支援専門員 法人入社8年目、相談支援専門員1年目(一人相談支援事業所)
あなたへの相談内容	アキさん(相談支援専門員)から、あなた(A市基幹相談支援センターの主任相談支援専門員)に相談の電話が入りました。  アキさん: <ul style="list-style-type: none"><li>• A市の福祉担当課職員から、80歳のお母さんと同居する息子さんの計画相談の依頼を事業所が受けました。</li><li>• 息子さんは50歳で、身体障害と軽度の知的障害があります。</li><li>• 私が相談に訪問しているのですが、事業所の管理者からは「うちの法人の生活介護につなげればよいのでは?」と言われるのです。</li><li>• 息子さん本人は、状況がよくわからないみたいで、お母さんからは計画の作成を急かされるし、誰に相談してよいのかわからず、電話させてもらいました。</li></ul>

# ワークシート1(主任相談支援専門員の地域での役割)

質問	記入欄
<p>1. アキさんからの電話を受けたあなた(主任)は、どのように動こうと思しますか？</p> <p>考えた概要を示してください</p>	(考えた概要)
<p>2. 1について、具体的な方法を示してください</p> <p>A circular diagram titled "5W1H" in red. It consists of six colored circles connected by arrows: a green circle labeled "When いつ", a pink circle labeled "Where どこで", an orange circle labeled "Who だれが", a blue circle labeled "What なにを", a teal circle labeled "Why なぜ", and a light blue circle labeled "How どのように". Arrows point from each circle to its corresponding question word.</p>	(具体的な方法)
<p>3. 主任相談支援専門員として重要なと考えた事はどんなことですか？</p>	

# 演習1 個人ワーク

## 【演習のポイント】

地域の相談支援専門員から相談を受けた時に、地域における主任相談支援専門員の役割をどのように受け止めるのか、どのような実践が必要かを考える。

※事前課題2-1を参考にする。

# 演習1 グループワーク

## 個人ワークの共有と意見交換

### テーマ

- ①主任相談支援専門員として重要と考えたこと 8分
- ②スーパービジョンが実施できる体制(実地教育体制)が、皆さんが活動する地域でどのように展開されているか、さらには地域でスーパービジョンを実施可能とする方法について協議  
12分

20分

## 演習2

# 『相談支援の質の向上に向けた個別スーパービジョン』

### 演習事例

地域の相談支援員	アキさん 28歳 女性 A市相談支援事業所の相談支援専門員 法人入社8年目、相談支援専門員1年目(一人相談支援事業所)
あなたへの相談内容	アキさん(相談支援専門員)から、あなた(A市基幹相談支援センターの主任相談支援専門員)に相談の電話が入りました。  アキさん: <ul style="list-style-type: none"><li>• A市の福祉担当課職員から、80歳のお母さんと同居する息子さんの計画相談の依頼を事業所が受けました。</li><li>• 息子さんは50歳で、身体障害と軽度の知的障害があります。</li><li>• 私が相談に訪問しているのですが、事業所の管理者からは「うちの法人の生活介護につなげればよいのでは？」と言われるのです。</li><li>• 息子さん本人は、状況がよくわからないみたいで、お母さんからは計画の作成を急かされるし、誰に相談してよいのかわからず、電話させてもらいました。</li></ul>

# A市相談支援事業所のアキさんの事業所を訪問したところ、以下の計画(案)を見せてくれました。

サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案

利用者氏名(児童氏名)		障害支援区分	区分2	相談支援事業者名	A市 相談支援事業所		
障害福祉サービス受給者証番号	000123456789	利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	南 アキ		
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号					
計画案作成日	令和6年3月15日	モニタリング期間(開始年月)	半年ごと	利用者同意署名欄			
利用者及びその家族の生活に対する意向 (希望する生活)	(本人) 私は、お母さんが心配していると思うから、応援してくれる場所に通ったりできればいいのかな? ……と周りの人たちが言うので、体験することになりました。 どこがあるのかなあ? (母) 自分も年をとり、子どものことが心配なので、私がいなくなても生活できる場所を早く探してほしい。						
総合的な援助の方針	ご本人が希望している暮らす場所と活動場所を検討します。お母さんに安心してもらえることを一緒に考えていきましょう。						
長期目標	家族が心配しない生活を送る。						
短期目標	応援してくれる場所になれる						
優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	活動場所がほしい	応援してくれる人との関係を作る	令和6年8月	生活介護 月日数 - 8日／月	支援員さんと仲良くなる	令和6年8月	
2	安心して暮らす場所がほしい	グループホームの体験を重ねて、入居を目指す	令和6年8月	共同生活介護 月日数／月	グループホームの仲間と仲良くなる	令和6年8月	

## ワークシート2(サービス等利用計画を見て気づいたこと)

質問	記入欄
1. アキさんからの計画(案)を見て、あなたは、主任相談支援専門員として、どんな事に気づきましたか？	
2. 気づいたことについて、アキさんにどのように話しかけ、質問しますか？	(具体的に記載してください。)
3. 主任相談支援専門員として重要だと考えたことは何ですか？(グループワーク)	<u>個人ワークでは記入不要です</u>

# 演習2 個人ワーク

## 【演習のポイント】

所属法人外の主任相談支援専門員にサービス等利用計画案を初めて見てもらう場面。  
主任相談支援専門員として考えたことを抽象的ではなく、具体的な話し言葉で書く。

※事前課題2-2を参考にする。

# 演習2 グループワーク

## 個人ワークの共有と意見交換

### テーマ

①事例に関して『主任相談支援専門員として気づいたことを具体的にどのような言葉で問い合わせるかとその理由』についてを報告 10分

②『主任相談支援専門員として重要と考えたこと』について報告 10分

20分

### 演習3

## 『個別課題から地域課題へ転換するグループスーパービジョン』

### 演習事例

地域の相談支援員	アキさん 28歳 女性 A市相談支援事業所の相談支援専門員 法人入社8年目、相談支援専門員1年目(一人相談支援事業所)
あなたへの相談内容	アキさん(相談支援専門員)から、あなた(A市基幹相談支援センターの主任相談支援専門員)に相談の電話が入りました。  アキさん: <ul style="list-style-type: none"><li>• A市の福祉担当課職員から、80歳のお母さんと同居する息子さんの計画相談の依頼を事業所が受けました。</li><li>• 息子さんは50歳で、身体障害と軽度の知的障害があります。</li><li>• 私が相談に訪問しているのですが、事業所の管理者からは「うちの法人の生活介護につなげればよいのでは？」と言われるのです。</li><li>• 息子さん本人は、状況がよくわからないみたいで、お母さんからは計画の作成を急かされるし、誰に相談してよいのかわからず、電話させてもらいました。</li></ul>

# アキさんからの問いかけ

アキさん：

- 私は、先日サービス等利用計画(案)を作成しながら、お母さんのご意向と、息子さんの見えないご意向のなかで、この親子が地域から孤立していることに気づきました。
- 私は、相談支援専門員として、この2人に対して、どんなことができるでしょうか？

## ワークシート3(個別課題から地域課題への転換)

質問	記入欄
1. アキさんからの問い合わせに、どのような印象をうけ、どのような支援が必要だと感じましたか？	
2. アキさんの気づきを応援するために、あなたはどんなことを質問しますか？	(具体的に記載してください。)
3. アキさんが抱えている課題を、地域で応援するために、想像したことを共有しましょう。 (グループワーク)	<b>個人ワークでは記入不要です。</b>

# 演習3 個人ワーク

## 【演習のポイント】

地域の相談支援専門員が気づいた個別課題についてその解決に向けた方法・姿勢を問われている場面。

個別課題から地域課題へ転換していくにあたっては、主任相談支援専門員が自ら実践者として地域と関わること、頼りになる社会資源につながること、障がい者自身もつ力を發揮してもらえるように働きかける存在であることを念頭に置く。

※事前課題2-3を参考にする。

# 演習3 グループワーク

## 個人ワークの共有と意見交換

### テーマ

- ①事例に関して『感じた印象と支援の必要性、応援するための具体的な質問とその理由』を報告

10分

- ②『地域で相談支援専門員の活動を応援するために主任相談支援専門員としてできること』について協議 10分

20分

# 講義4

## 地域連携、地域づくりに向けた 研修企画・運営

# まとめ

**振り返りシートのご記入を  
お願い致します。**

**大変お疲れ様でした。**

## 参考資料

### 1 エンパワメント、アドボカシーの視点

- ① 「〇〇したい」と本人の言葉で、希望する生活の全体像が書いてある
- ② 本人の強みを捉えて、前向きに表現している
- ③ 全てをサービスなどに頼るのではなく、本人の役割も書かれている
- ④ 本人にとってわかりやすい言葉や表現で書かれている
- ⑤ 希望する生活に向けて、少しづつ段階的に近づくように目標が書かれている

### 参考

#### 評価スケール

平成24年度  
厚生労働省  
障害者総合福祉  
推進事業

サービス等利用  
計画評価  
サポートブック

### 2 総合的な生活支援の視点

- ① 本人が望む生活の全体像がわかりやすく書かれている
- ② 障害福祉サービスを使うこと(サービスの支給決定)だけを目的とした計画ではなく、本人の希望を実現するための課題も書かれている
- ③ 医療、教育、司法等の領域のサービスやインフォーマルなサービス等も書かれている
- ④ 本人が望む一週間及び一日の生活に必要なサービス等が網羅され、具体的にイメージできるように書かれている
- ⑤ 就学や就労など次のステージへ切れ目がないよう、これまでの支援方針や関連する個別の計画が活かされて、将来に向けて総合的に書かれている

### 3 連携・チーム支援の視点

- ① 関係機関が共通理解をもってチームで支援できるよう、その方向性が具体的に書かれている
- ② 相談支援専門員が課題を一人で抱え込まずに、チームで連携して対応できるよう関係機関の役割が具体的に書かれている
- ③ 個別支援計画の参考になるように、基礎情報、支援のポイント、関係機関へのメッセージが具体的に書かれている
- ④ 関係機関の支援内容、頻度、意見について、具体的に聞き取ったことが書かれている
- ⑤ 本人の生活に関わる地域の関係者(近隣住民、お店など)や自立支援協議会関係者を把握し、普段の様子を聞き取つて、それが書かれている

#### 4 ニーズに基づく支援の視点

- ① 本人の希望する事が「～したい」といった本人の言葉で具体的に書かれている。また本人の思いをしっかりと汲み取り、本人が取り組みたい課題から優先するように書かれている
- ② 家族の意向を具体的に把握し、本人の思いと区別して、誰の意向かわかるように書かれている
- ③ 課題に対して本人の意欲や緊急性、即効性、重要性、専門性等を考慮して、まず取り組むべき事項から適切に優先順位がつけられている
- ④ 本人のニーズに基づいて、支援目標、サービス種類、評価時期などの項目が一連の流れの中で整合性をもって書かれている
- ⑤ 本人の要望だけ、あるいは支援者側の一方的な提案だけの記載ではなく、相談支援専門員としての総合的判断(見立て)と本人のニーズが一致した内容、または一致していない場合はその調整結果が書かれている。

#### 参考 評価スケール

平成24年度  
厚生労働省  
障害者総合福祉  
推進事業

サービス等利用  
計画評価  
サポートブック

#### 5 中立・公平性の視点

- ① サービス提供法人が特定の法人(特に相談支援事業所の法人)に偏っていない、または偏っている場合は、その理由が具体的に書かれている。
- ② 本人のニーズや生活実態に合わせた適正な計画であり、支援やサービスが過不足なく書かれている
- ③ 同じような状態像、年齢、生活状況の障がい者と比較しても適正な計画であり、本人に必要な支援やサービスが過不足なく書かれている。
- ④ 本人のニーズや生活実態に合わせて地域資源を活用し、既存のサービスの継続利用だけではなく、選択可能な地域資源を把握した上で、計画が書かれている
- ⑤ 行政の支給審査基準も確認した上で、本人のニーズに基づいて必要なサービス量が書かれている

#### 6 生活の質の向上の視点

- ① サービス提供事業所からサービス提供状況や本人の生活の変化等について聴き取り、その内容とそれは「いつ」「誰に」「どのように」聴き取ったかを含めて記載している。
- ② 本人からサービス内容や事業所等についての満足度や改善してほしいことがないか聴き取り、その内容とそれは「いつ」「誰に」「どのように」聴き取ったかを含めて記載している。
- ③ 計画通りにサービスが提供されたか、また目標の状態にどの程度まで近づいたかを「いつ」「誰と」「どのように」検討したかを含めて記載している。
- ④ 本人ニーズやライフステージ等に変化がないか確認した上で、未達成の目標や新たな課題への対応、必要に応じた計画変更理由やその内容について、「いつ」「誰と」「どのように」検討したかを含めて記載している。
- ⑤ モニタリングやサービス担当者会議等を踏まえた総合的判断を反映し、全体の状況を把握した上で、今後の方向性を具体的に記載している。

## 1. 意思決定支援

- ① 相談支援において、「本人の意思を無視していないか」を意識することの必要性
- ② 相談支援において、「本人の言葉の意味を吟味しているか」をその都度考えることの必要性
- ③ 相談支援において、「支援者の都合が優先されていないか」を常に考えながらかかわることの必要性
- ④ 計画作成時、「既存の社会資源だけが支援の前提となっていないか」を見直すことの必要性
- ⑤ 相談支援のプロセスにおいて、「先に支援者の結論ありきで話を進めていないか」を振り返ることの必要性
- ⑥ 本人や家族等から、育ってきた環境の中で興味を持ったこと、楽しかったこと、楽しい時や嫌なときの表情などを知ることの意味

## 2. インテーク

- ① 信頼関係の基礎を構築するために大事な場面
- ② 福祉サービスに限定したやり取りではなく、主訴等の背景を丁寧に聞くことの意味
- ③ 今後の相談支援の見通しを説明し、利用者から同意を得ることの必要性

## 平成30年度相談支援指導者養成研修より «セルフチェック»

### 3. アセスメント

- ① アセスメントは、利用者から表出される全てが大切な情報である
- ② 生活歴を丁寧に聞くことは、利用者への理解が深まることになる
- ③ ストレンジスは、健康な側面に着目した「本人のポジティブなところ、強み」であり、支援には欠かせない視点であることから、対話の中で常に意識する
- ④ 情報の整理は、利用者から得た情報をその都度整理し、エコマップやジェノグラム、ストレンジス票等のツールを活用することの有効性
- ⑤ アセスメントの能動性・構成力を高めるには事例検討やG S Vなどの場面に参加することの重要性

### 4. モニタリング

- ① 基本相談で得られた情報による支援者の見立てがモニタリングに影響している
- ② サービス利用の有効性だけではなく、人との関係性や環境の変化など、多角的な視点をもってモニタリングを行うことの重要性

## 1. チームアプローチの視点と意思決定支援

平成30年度相談支援指導者養成研修より «セルフチェック»

- ① 本人の周囲にいる人々や地域の関係機関を把握することの必要性
- ② 本人の意思（本人中心）を尊重しながらチームで支援することの必要性
- ③ 本人を中心としたチームを構成するために必要な手段
- ④ 本人を中心としたチームの中での自分の役割
- ⑤ チームアプローチを通した新たな社会資源の創出

## 2. チームアプローチの展開

- ① 支援目標の共通理解を得るための会議の実施
- ② 支援の経過や本人の満足度、チームアプローチの評価のための会議の実施
- ③ 危機介入や緊急時の支援体制やリスクマネジメント
- ④ 地域資源（地域の中にある当たり前の資源）の活用方法
- ⑤ 地域を巻き込んだ支援の検討
- ⑥ 本人の意思を確認しながらチームでかかわる

## 3. 関係機関との連携（個別支援を中心としたネットワーク）

- ① 本人の意思決定支援に重きを置いた会議の必要性
- ② 本人を中心とした支援会議の目的と効果
- ③ 本人を中心とした支援会議を日常的に実施している
- ④ 本人を中心とした支援会議の自分の役割
- ⑤ ネットワークを通した社会資源の活用
- ⑥ ネットワークを通した社会資源の創出